

WEEKLY BULLETIN

会報 2016-2017

11月24日(木) 第18号
第2811回例会
第2510地区

●本日のロータリーソング 四つのテスト

Rotary



ロータリー財団月間に因んで 札幌東ロータリークラブ

ロータリー財団委員長
梅澤 英行 会員

1917(大正6)年、第6代のRI会長のアーチ・クランプが寄付の受け皿をつくり、そこにミズーリ州のボルチモアロータリークラブから26ドル50セントの寄付が届きました。こうして始まったロータリー財団は今年100周年になります。本年度の財団委員会は4月にFSMを行い、今年度の目標を「1年間かけて財団のことを皆さんに理解していただけるように努力すること」とし、その結果として会員から寄付をいただくこととしました。

【1.ロータリー財団について】

ロータリークラブとは違う組織であり、この2つは車の両輪と言われている。共通の理念が「奉仕の理想」である。財団には、①健康、②教育、③貧困救済の3つのキーワードがある。寄付の仕方も3種類あり、①恒久基金寄付(何かあった時の準備金で運用益は使うが、元本は手を付けない)、1000ドル以上の寄付でベネファクターの称号を得る。②使途指定寄付(ロータリー財団のプログラムから寄付をする会員が、使途を宣言して寄付。例えばポリオプラス)。③我々が行う年次寄付(1000ドル寄付でポール・ハリスフェローの称号を、2000ドル、3000ドルと増額するとマルチプルポール・ハリスフェローの称号を、1万ドルに達するとメジャードナー(当クラブでは塚原会員と青木会員)の称号を得る。

【2.財団のお金の話】

我々の寄付はクラブ、地区を通じて財団に送られる。ところが財団はこの寄付を3年間運用して、その次の年に奉仕活動に使う。寄付した年度を寄付年度、実際に使う年度をプログラム年度と呼ぶ。プログラム年度になると地区予算の連絡が届く。今年の2510地区の予算は約3600万円。この使い道は、財団が主体のWF(ワールドファンド)とその権限が地区に委ねられるDDF(ディストリクトデザインエティッドファンド)に分けられる。配分比率は50:50。WFの使途は①マッチング・グラント(地区やロータリークラブが他国のロータリアンと協力し、国際的な人道的プロ

本日のプログラム

(移動例会)「職場訪問」
職業奉仕委員会

12:30~ (於)北海道コカ・コーラボトリング(株)

プロジェクトを遂行するのを援助)、②奨学金、③ポリオプラス。

一方、DDFは①グローバル補助金(投資規模が3万ドル以上の案件で、人道的プログラム、大学院レベルの奨学金、専門的職業研修など)、②地区補助金に分けられる。①グローバル補助金は申請要件があり、ロータリーが指定する6つの取り組み(紛争、疫病、水と衛生、母子の健康、識字率、地域経済)がある。②地区補助金は奉仕プロジェクト関連予算と社会奉仕プロジェクトの関連予算(我々が良く知っている地区補助金)である。地区補助金は社会奉仕事業を自分達で考え、予算を地区に申請し地区の補助金委員会で審議される。認められると補助金が出る。今年の予算額が450万円で、69クラブ中、ほぼ半数から申請があり、申請額は600万円でどのクラブも予算額が削減された。

【3.財団への寄付の意義について】

ロータリー運動とは、自分が考えるに心の中の奉仕観・倫理観を例会への出席を通し優良な会員との接触をどんどん高めることである。こういった財団の寄付の話をした時に強制的な響きを受け取られるかどうかは、ロータリアン精神をどの程度理解しているかに尽きると思う。財団の寄付の評価は、クラブの総寄付額(10位)と会員1人の寄付額(69クラブ中51位)になる。2510地区の中で指導的な活動をしてゆくのであればクラブの力量にあった寄付実績を積むべし。

最後に、東クラブのプライドを忘れないでほしい。来年は60周年を迎えます。月4回ある例会の1回を軽食会にし、食費を浮かし、20万円(50年前~)の寄付をしていました。東クラブらしい新しい財団寄付への取り組みのスタートの年になることを祈っています。

マンリー
メモ

例会時に円卓上の4つのテストを黙読ください。4つのテストは1954年にハーバート・テラー(1954RI会長)が会社再建に考え実践。今ではRCの基本理念の一つになっています。